

健忘症

カール・ファレンティン　あのう、奥さん、ええと……いや、お名前が思い出せなくて。

リースル・カールシュタット　あなたらしいですわね。あんなに長いこと、同じ建物に住んでいましたのに、ディングス通りの……

KV　ええ、その通り。そうです、そうです。シュヴァイクホーファーさんでしたね！

LK　いいえ、いいえ、全然ちがいますわ。もっと短い名前です……

KV　ああ、思いだした。ナガイさんですね！

LK　いえ、いえ。短い名前ですよ。　もう申しましょうか。

KV　マイヤーホーファーさん！

LK　そう、その通りです。そしてあなたはホーフマイヤーさん。

KV　ええ、そうです。始めの頃、お互いよく名前を混同したのを、覚えていらっしやいます？　そうそう、マイヤーホーファーさん、お会いできてよかったです。あなたに少しばかり大切なお話があったんです。今、ちょっと思い出せないんですが。ええと……何でしたっけ？

LK　私にもよくそんなことがありますわ。

KV　何だったっけ？　ええと、ええと、もうしゃくにさわる。

LK　何かお仕事のことでしょうか？

KV　ちがいます、ちがいます。ええと……あなたにお会いしたらお話しなければならぬということ覚えてるんですが。

LK　まったく、年を取ると忘れっぽくなるんですね。

KV　おっしゃる通りです。　何を言いたかったのさ？　もう思い出せない。

LK　私もそうですのよ。私、きのう、あそこで、あそこで、　ええと、どこだったかしら、あそこ……

KV　家で？

LK　いいえ、家ではなくて、あそこ、おっしゃって下さいな。

KV　あなたがどこにいらしたか、私にはわかりかねますな。

L K そりゃそうですね。自分でもわからないんですもの。あそこ　まあ、いいわ、たいしたことではありません　とにかくそこでやらなければならぬことがありますね。そこで私は……そこで私は……

K V 私もいつも、まったく同じありさまです。家で別の部屋に行くとしますね、そっちに行ってみると、そこで何をするつもりだったか覚えてないんですよ。

L K 私、あんまり物忘れがひどいものですから、一度、お医者様に行ってみたんですの。で、お医者様に、どこが具合が悪いのですかと尋ねられた時、あなた、思い出せたならばね。まるで忘れちゃってたんですよ、健忘症のために行っただってことを。

K V 何でもかんでもメモすればいいんでしょうね。そうしたら忘れない。

L K それ、もう試してみましたけど　駄目でしたわ。

K V どうして駄目だったんです？

L K メモ用紙と鉛筆をいつも忘れてしまつんですよ。

K V 一度、忘れなかったことがありますよ。あの時は、ちょっと大事なことを覚えておきたかったものだから、自分にこう言っただんですわ。覚えようとしても駄目なんだ、忘れちゃうんだから。で、どうなったと思います？　覚えていられたのですよ。

L K それで、それは何だったのですの？

K V もう忘れてしまいました。